

# リサイクル・適正処理の専門家グループ IPGがいよいよ始動。……(株)東伸サービス

廃棄物処理の専門家グループを立ち上げる。

循環型社会にむかって、廃棄物処理業者が1社でできる範囲は限られています。また、排出事業所においても廃棄物をトータルに処理してほしいという声も多くあり、総合的な処理体制を多くの企業が望んでいます。

産廃業者1社1社ではできなくても、それぞれの処理技術とノウハウを持ちよって連合体を結成することで、より多くのニーズに対応することが可能で、廃棄物市場を戦略的にとらえることができます。協業化、協同化の動きはこうした背景から生まれてきたもので、産廃業界のサバイバル化はすでに始まっており、PFI（パーソナル・ファイナンシャル・イニシアティブ）の事業もすでに全国で展開され、その動向が注目されています。

(株)東伸サービス(日進市浅田町平子4-622/



中野弘社長)が今進めている廃棄物処理の専門家集団IPG(インダストリアルウエスト・プロフェッショナル・グループ)もそのひとつで、1社1社がもっている廃棄物の処理技術やノウハウを集めて体系化し、各社の持ち味を生

かすことで総合的に廃棄物の適正処理や資源活用を行なっていこうというもの。中間処理はさまざまなものがあり、特にこの分野はリサイクルと平行して、各社の協力、支援体制で効率的に処理ができ、排出事業所のニーズに幅広く応えることができます。

このIPGの主宰でもある中野社長は「これまでいろいろな会社が集まって勉強会や研究会を行なってきましたが、意見交換だけではなかなかまとまりません。リサイクルはもうまったなしの現実であり、ダイオキシンの14年対応も来年のことで、リサイクル施設、焼却施設などどれをとってもこれから大きな費用がかかり、これらのハードルを未来を見据えて解決していくためにIPGが結成されました。このIPGには出資金を出して参画

していただいております。今までのような勉強会や研究会とは違い、IPGの運営と企画に参画し、ビジネスを実践しながら組織の強化と事業の拡大を図って行くことが目的です。」と意気込みを語っていただきました。

IPGには現在、廃棄物、特管物の中間処理業者、発泡スチロール、プラスチック等のリサイクル業者など8社が参加。今年、IPGの理念や目的、事業内容などをまとめた事業計画書ができ、スタートしました。

## 中野社長の呼びかけに賛同、専門家グループによる総合的な戦略を。

廃棄物の種類でAは処理できるがBはできないとの対応もしかり。排出事業所にとっては、廃棄物の一括処理を望むケースやISOに関しての環境アドバイスが今後、多く増えてきます。こうしたニーズをIPGのグループメリットで解決することができ、リサイクル業者の参加を増やし、循環型社会に対応した廃棄物処理の総合施設を目指して着々と計画が進んでいます。一般廃棄物や産業廃棄物の区分見直しを視野に入れて“あらゆる廃棄物に独自の処理技術とノウハウ、設備でチャレンジする”専門業者がそれぞれに特色を生かした新しい廃棄物処理の戦略がスタートします。

## 処理技術を体系化することで 大きな武器になります

例えば医療廃棄物中の点滴など非感染の部分は焼却するのではなく、リサイクル処理できないかといったことも研究中で、この分野の処理技術ができれば、相当な量がリサイクルできることになります。現段階では処理できなくても技術によって資源化できる分野も実は沢山あり、IGPによって1社では無理であった研究や技術の成果を総合的に体系化することができ、知的集約された専門家グループならではの強力なメリットを発揮していくことができます。

特に廃棄物処理は、中味が見えない、情報が公

開されていないなど、周辺住民へのコンセンサスの問題が多くあり、IPGが行なうグループ間の協力体制の処理技術の体系化は排出事業所にも納得できる説明ができ、安心と安全の大きな付加価値をつけることができ、必ずしもコストだけが問題とはなりません。むしろ今後は、処理単価は自分達で適正料金、処理技術を提示することが重要になってくると思います。

最近では大手鉄鋳メーカー、家電メーカー等も廃棄物処理、リサイクルに進出していますが、実はこうした大手にできない廃棄物の処理が多いということです。こうした分野も今後大いに注目し、IPGの総合力が発揮される市場だといえます。

同社は廃棄物を処理し、無害化し、高強度コンクリートで一体成型したハーマシール工法は画期的な工法として注目を集め、ブロック加工された製品として

- 建築物の基礎、よう壁及びえん堤」、軟弱地盤の改良資材、土木・建築資材、街路樹の保護ブロックなどいろいろ。
- 道路等の消音資材、海岸川岸などの埋立用消波ブロックとして。
- 炭鋳現場の坑道などの地盤補強にも活用。
- 目の届くところで管理と同時に活用できるから、二重の安心。

など用途はいろいろ。技術の体系化の必要性を自らの廃棄物処理業を通して実践しています。

### 地域リサイクル活動に積極的に参加。

同社では、廃棄物のリサイクル、適正処理に取り組むほか、地域社会への呼びかけも積極的に行なっており、敷地と施設を地域市民に開放したりリサイクル広場はテレビや新聞等でも取り上げられ、地元では有名なところ。市民レベルでのリサイクルと情報発信源として大いに活用され、リサイクルの輪が広がっています。この他にも過疎地の活性化を働きかけたり、竹を利用して汚水の浄化を行なうなど、すべてに積極的姿勢で望んでいます。



**ゴミ・廃棄物の最終処分場は、もういない…!?**

増え続けるゴミや廃棄物、焼却に伴うダイオキシン発生、最終処分場から流出する有害物質……20世紀の経済社会が生み出したゴミ・廃棄物をめぐる諸問題の、画期的な解決法がここにある!

「リサイクル自由広場」で、すでに4年以上の実績を持つハーマシールブロック。

「ハーマシールブロックのいいところは、建築物の基礎、よう壁及びえん堤」、軟弱地盤の改良資材、土木・建築資材、街路樹の保護ブロックなどいろいろ。

「ハーマシールブロックのいいところは、道路等の消音資材、海岸川岸などの埋立用消波ブロックとして。」

「ハーマシールブロックのいいところは、炭鋳現場の坑道などの地盤補強にも活用。」

「ハーマシールブロックのいいところは、目の届くところで管理と同時に活用できるから、二重の安心。」

「ハーマシールブロックのいいところは、など用途はいろいろ。技術の体系化の必要性を自らの廃棄物処理業を通して実践しています。」

http://www.toshin-s.com